

平成25年度
事業計画書

事業年度 自 平成25年4月 1日
(第4期) 至 平成26年3月31日

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
東京都中央区銀座一丁目19番16号

(A001891)

平成25年度事業計画書目次

■協会の概要

I. ゴルフ業界の現状	1
II. 当法人の現況に関する事項	1
III. 役員等に関する事項	7
IV. 会計監査人に関する事項	8
V. 業務の適正を確保するための体制等の整備についての 決議の内容の概要	8
VI. その他の重要事項	8

■公益目的事業1. ゴルフ競技会開催事業

I. 概況	10
II. 開催競技と競技参加者数計画	10
III. 平成25年度競技の改善点	11
IV. 競技開催要項	13

■公益目的事業2. ゴルフ普及振興事業

I. 調査・研究事業	22
II. セミナー・研修事業	22
III. 交流・協力事業	23
IV. 機関紙発行事業	24
V. その他のゴルフ普及振興事業	24

■その他の事業1. 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業

I. ハンディキャップ普及振興事業	26
II. JGA/USGAコースレート査定事業	27

■その他の事業2. 助成金事業

27

事業計画書の附属明細書目次

■役員以外の法人等の業務執行理事との重要な兼職の状況

28

■その他の記載事項

28

■協会の概要

I. ゴルフ業界の現状

我が国最大のスポーツ産業であるゴルフ業界の最近の状況を、ゴルフ場利用者数の推移(下表参照)で見ると、平成17年度にゴルフ場利用者数はそれまでの減少から増加に転じ、その後平成21年度までの5年間の増加人数は延べ6,335千人、増加率7.4%と順調に増加し、漸く最悪期を脱し明るさが見えはじめたかに思われた。然しながら、平成22年度にはピークアウト、引き続き平成23年度も東日本大震災の影響から、人数・率とも大きく減少(▲3,724千人、▲4.2%)した。

足許のゴルフ場利用者数の推移は以上の通りだが、ゴルフ業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にある。一方、2015年(平成27年)問題、所謂人口構造の変化からくるゴルフ業界マーケットへの影響として、ゴルフ場・ゴルフ練習場の入場者数が2010年(平成22年)にピークアウトし、以後連続減少期に突入するとの予測だが、正に予測通りに推移している。

また、「平成23年社会生活基本調査」(総務省)では、平成23年時点のゴルフ人口(ゴルフ練習場入場者を含む)は924万人で、平成18年調査の1,014万人に比較して90万人(▲8.9%)減少し、「遂にゴルフ人口が1,000万人を切る。止まらないゴルフ人口減少」と発表している。人口減少、少子高齢化と同時進行している2015年問題から、ゴルフ業界の経営環境は引き続き厳しいとの見方が一般的である。

このような状況下、ゴルフ業界にとってはゴルファーを増やす底辺の拡大施策、またプレー回数を増やす等の需要創出が喫緊の課題であり、一方、ゴルフを継続できる環境整備に向けてゴルフ業界団体は、連携を強化し市場活性化に向けた取組みを、一層強化すべきであると思われる。当協会はゴルフ競技会を通じて、アマチュアゴルファーの育成を基軸に、業界の活性化に向けた様々な事業活動を推進したいと考えている。

【近年のゴルフ場利用者数の推移】

年度	利用者数 (千人)	増減 (千人)	同比率 (%)	ゴルフ場数 (場)	1ゴルフ場当たり 利用者数 (人)
平成16年度	85,307	▲3,069	▲3.5	2,453	34,777
平成17年度	86,046	739	0.9	2,446	35,178
平成18年度	88,235	2,189	2.5	2,442	36,132
平成19年度	89,020	785	0.9	2,442	36,454
平成20年度	90,786	1,766	2.0	2,442	37,177
平成21年度	91,642	856	0.9	2,445	37,481
平成22年度	88,061	▲3,581	▲3.9	2,432	36,209
平成23年度	84,327	▲3,734	▲4.2	2,432	34,947

(注) 出所: 一般社団法人日本ゴルフ場事業協会調

II. 当法人の現況に関する事項

1. 平成25年度事業の計画

単位: 千円

事業別	平成25年度予算額	平成24年度予算額	増減
事業費			
公益目的事業	161,506	166,351	▲4,845
その他の事業	32,208	38,591	▲6,383
法人会計	14,390	15,146	▲756

合計	208,104	220,088	▲11,984
経常増減額			
公益目的事業	▲15,621	▲21,366	▲13,350
その他の事業	14,105	20,759	12,441
法人会計	1,835	654	1,181
合計	319	47	272

(注)1.その他の事業(定款第5条):ハンディキャップ普及振興事業並びに助成金支出事業

2.資金調達の状況

- (1)資金調達の計画 :なし
(2)設備投資の計画 :なし

3.直前3事業年度の財産及び損益の状況

単位:千円

区分	平成22年度 実績	平成23年度 実績	平成24年度 実績	平成25年度予算 (当該事業年度)
経常増減額の部	▲ 4,630	5,638	▲ 3,526	319
評価損益等調整前 当期経常増減額	▲ 4,630	5,638	▲ 3,526	319
経常外増減の部	▲ 7,384	▲2,506	▲ 7,433	0
当期正味財産増減額	▲12,014	3,132	▲10,958	319
正味財産期末残高	35,809	38,941	27,983	28,302

(注)経常外増減の部 平成22年度:公益社団法人移行費用、協会創立50周年史製作費
平成23年度:協会創立50周年史製作費

4.主要な事業内容

事業	主要な内容
公益目的事業(定款第4条) 【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、アマチュアゴルファーによるゴルフ競技会を開催して、生涯スポーツのゴルフの普及振興を図る事業 (事業の内容) ・ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業
公益目的事業(定款第4条) 【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、ゴルフに関するセミナー・研修、交流・協力、調査・研究事業を行い、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業 (事業の内容) ・ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業 ・ゴルフ界諸団体との交流・連携を通じてのゴルフ普及振興事業 ・ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業
その他の事業(定款第5条) 【収益事業】 ハンディキャップ普及振興	アマチュアゴルファーがゴルフを楽しむための前提となる、公平な統一ハンディキャップの普及振興、及びその前提となるコースレート査定事業

事業	(事業の内容) ・公平な統一ハンディキャップの普及振興事業 ・コースレート査定事業
その他の事業(定款第5条) 【助成金事業】	ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する、ゴルフ界2団体に対する助成金事業 (事業の内容) ・ゴルフ界2団体に対する助成金支出事業 (注)平成23年度以降は収支悪化のため休止している。

5.事業体系

【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技
	II.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯
	5. PGS中部日本地区月例杯(みんなであきうき旅ゴルフ)
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. 調査・研究事業
	2. セミナー・研修事業
	3. 交流・協力事業
	4. 機関紙発行事業
	5. その他のゴルフ普及振興事業
【その他の事業 1】 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
	2. コースレート査定事業
【その他の事業 2】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業 (平成23年度以降は収支悪化のため休止中)

6.主たる事務所の状況

名称	所在地
公益社団法人日本パブリックゴルフ協会事務局	東京都中央区銀座1-19-16 銀座昭和ビル2階B室

7.主要な借入先及び借入額

借入先	借入額	償還期限等
なし		

8.重要な契約に関する事項

(1)会社役員賠償責任保険並びに賠償責任保険契約の締結

契約年月日	保険の名称	支払限度額
平成25年4月1日	会社役員賠償責任保険	3億円
保険料	保険会社	保険期間
290,000円	三井住友海上火災保険株式会社	平成26年4月1日
契約年月日	保険の名称	支払限度額
平成25年4月1日	賠償責任保険	3億円
保険料	保険会社	保険期間
164,860円	三井住友海上火災保険株式会社	平成26年4月1日

9.会員に関する事項

(1)会員数

単位:団体

種類	平成24年度末	平成25年度計画	増減
正会員	81	84	3
賛助会員	8	8	0
合計	89	92	3

(正会員数の拡大について)

協会加盟正会員100団体の実現は長年の課題であるが、直近の正会員数の推移は平成21年度の90団体をピークとして、平成24年度末には81団体まで減少した。係る状況を勘案して、平成25年度は正会員勧誘活動を強化・推推進する。

(2)地区別正会員数

単位:団体

東日本地区	中部日本地区	西日本地区	北海道・青森地区	合計
30	11	36	4	81

(3)会員数の推移

単位:団体

年度	正会員			賛助会員		
	入会	退会	会員数	入会	退会	会員数
平成22年度	2	3	89	0	0	6
平成23年度	0	6	83	0	0	6
平成24年度	1	3	81	2	0	8

10.職員に関する事項

平成25年3月31日現在

職名等	氏名	就任年月日	担当事務
事務局次長	中村 知則	平成21年4月 1日	競技担当
係長	久保 拓二	平成20年4月 1日	競技担当
一般事務	村松 洋子	平成17年3月14日	競技担当
一般事務	小路美智代	平成20年5月 1日	総務・経理・人事担当

一般事務	小山内美枝	平成21年2月24日	総務・経理・人事担当
------	-------	------------	------------

11.役員会等に関する事項

(1)通常社員総会

通常社員総会	開催予定日	開催場所
	平成25年6月10日	八重洲富士屋ホテル
(議案)		
決議事項	第1号議案 平成24年度事業報告書(案)承認の件	
	第2号議案 平成24年度財務諸表及び附属明細書並びに財産目録(案)承認の件	
報告事項	第1号議案 平成25年度事業計画書報告の件	
	第2号議案 平成25年度正味財産増減予算報告の件	

(2)理事会

	開催予定日	開催場所
第1回	平成25年 6月10日	八重洲富士屋ホテル(東京都)
第2回	平成25年11月21日	ホテル レオパレス名古屋(愛知県)
第3回	平成26年 3月13日	イーストウッドゴルフクラブ(栃木県)

(3)常務理事会

	開催予定日	開催場所
第1回	平成25年 6月10日	八重洲富士屋ホテル(東京都)
第2回	平成25年11月21日	ホテル レオパレス名古屋(愛知県)
第3回	平成26年 3月13日	イーストウッドゴルフクラブ(栃木県)

(4)全国運営委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成25年 8月23日	未定(東日本地区)
第2回	平成26年 2月18日	未定(西日本地区)

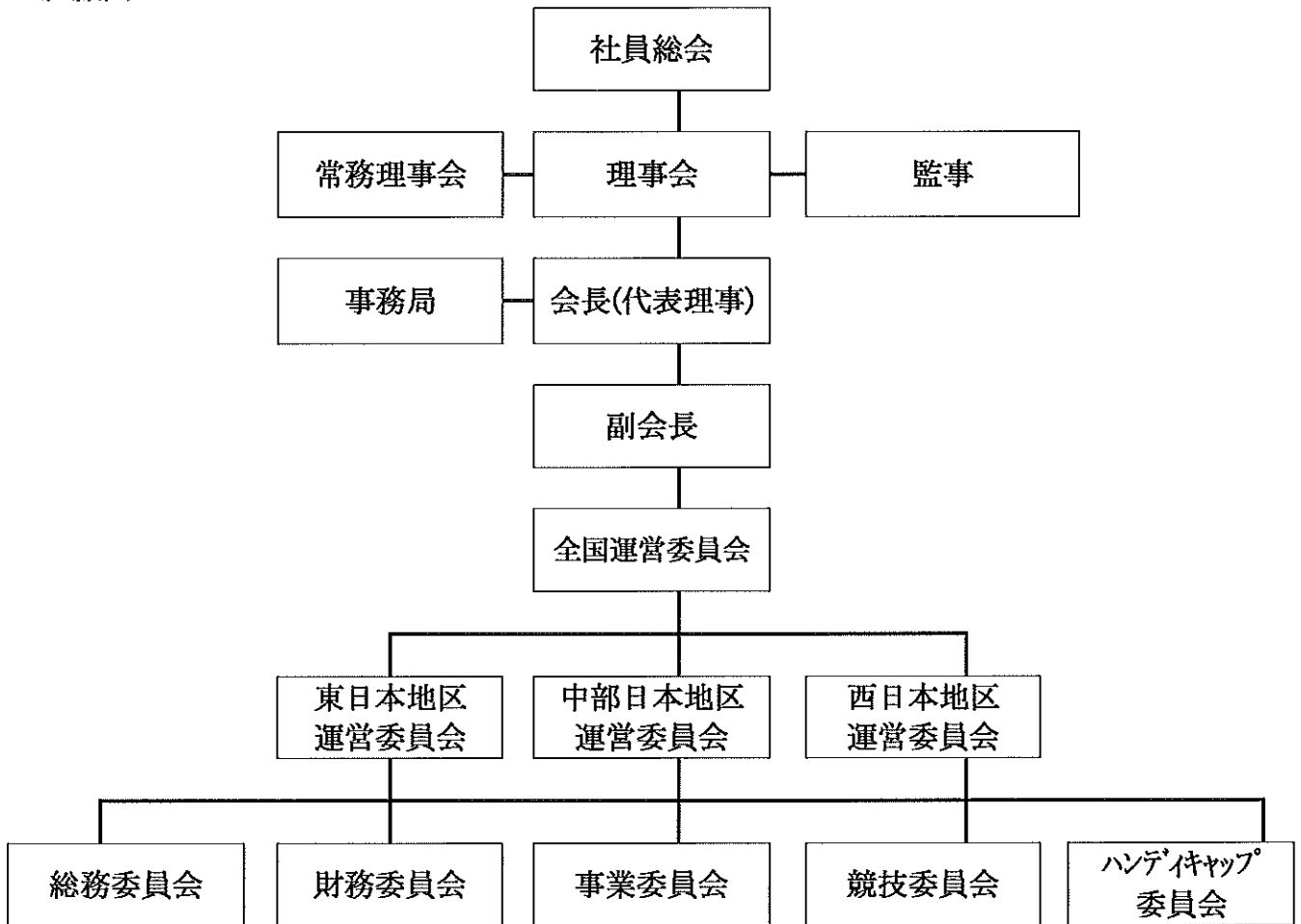
(5)財務委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成26年 2月21日	協会事務局

(6)スポンサー会議

	開催年月日	開催場所
第1回	平成25年10月17日	ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ(茨城県)

12.組織図



13.許可、認可、承認等に関する事項

申請年月日	申請事項	許可等年月日	備考
なし			

14.株式の保有状況

取得計画なし

15.対処すべき課題

(1) 競技参加者数の拡大

競技参加者数は平成19年度をピークとして、以降は減少傾向にある。平成24年度の実績はスクラッチ競技15,527名、アンダーハンディ競技18,582名、合計34,109名であり、前年度対比で1,442名減少(▲4.1%)し、残念ながらここ数年の減少傾向に歯止めをかけることができなかった。

継続的な競技参加者数の減少は、収支並びに財政状況の悪化を招来し、協会事業の安定的運営上懸念が生じるので、競技参加者数の拡大は喫緊の課題である。

公益社団法人への移行(平成22年度)を機に、平成23年度通常社員総会に於いて「今後の事業活動の基本方針」を決議したが、メイン競技であるパブリック選手権を往年の1万人台の参加者数に復活、更に2万人、3万人と規模の拡大を目指したい。また、今後は国内活動のみに留まることなく、海外にも目を向けた事業展開を図りたい。

(2) JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得者の拡大

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップが前提となる。従って、ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任がある。当協会のJGA/USGAハンディキャップインデックス取得者は、約21,000名で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料で手軽に取得できる点から、多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

当協会の収支構造は、公益目的事業は収支トントンが目途であり、収益事業であるハンディキャップ普及振興事業の安定的運営により、協会事業活動の円滑・安定性が担保されるので、ハンディキャップ取得者の拡大も(1)同様に喫緊の課題である。

(3) 正会員・賛助会員の拡大

協会加盟正会員100団体の実現は長年の課題であるが、直近の正会員数の推移は平成21年度の90団体をピークとして、平成24年度末には81団体まで減少した。係る状況を勘案して、平成25年度は正会員勧誘活動を強化・推推進行する。

III. 役員等に関する事項

1. 理事

平成25年3月31日現在

役職名	氏名	区分	任期	常勤・非常勤	報酬等
会長(代表理事)	三野 哲治	代表理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 競技委員会委員長	石井 信成	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 事業委員会委員長	三治 明	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 ハンディキャップ委員会委員長	西村 潔	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
専務理事	島田 忠次	専務理事	平成26年6月	常勤	有償
総務委員会委員長	三浦 光男	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
財務委員会委員長	笠原 泰夫	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	林 一郎	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	加藤 義孝	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	六車洋二郎	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	神戸 誠	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	久保田英示	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	森 章次	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
ハンディキャップ委員会副委員長	西 治彦	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
ハンディキャップ委員会副委員長	小野 和彦	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
	伊藤 哲夫	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	木村 妙子	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	久保田誠一	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	小林 寛道	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	小林 弘実	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	中元紘一郎	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	平山 伸子	理事	平成26年6月	非常勤	無償

	雪野 智世	理事	平成26年6月	非常勤	無償
--	-------	----	---------	-----	----

以上23名

(注)理事の他の法人等の代表状況等、並びに兼職状況は「事業報告の附属明細書」に記載した。

2. 監事

平成25年3月31日現在

	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等
監事	豊原 正嗣	平成26年6月	非常勤	無償
監事	菅野 孝男	平成26年6月	非常勤	無償
監事	大田 英二	平成26年6月	非常勤	無償

以上3名

(注)監事の他の法人等の代表状況等、並びに兼職状況は「事業報告の附属明細書」に記載した。

3. 顧問

平成25年3月31日現在

	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等
顧問	石井 幸成	平成26年6月	非常勤	無償
顧問	浅井 光昭	平成26年6月	非常勤	無償
顧問	丸山 信久	平成26年6月	非常勤	無償

以上3名

4. 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
専務理事	1名	非公開(個人情報)	常勤

(注)理事の報酬限度額は、「役員等報酬規程」において年額900万円以内と規定されている。

IV. 会計監査人に関する事項

当協会は会計監査人の設置義務なし

V. 「業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議」の内容の概要

平成25年度第1回理事会(平成25年6月10日開催予定)にて、決議を予定している。

VI. その他の重要事項

1. 東日本大震災に対する復興支援活動

(1) ゴルフ業界の復興支援活動

平成23年3月に発生した、東日本大震災に対するゴルフ界の復興支援活動は、日本ゴルフサミット会議が中心となり、他にゴルフ界4団体の参画を得て復興支援活動をスタートさせた。

平成23年4月4日にゴルフ界20団体の代表者が一堂に会して、「日本ゴルフ界合同・震災復興支援チャリティプログラム」として「グリーン・ティ・チャリティ(GTC) ～日本のゴルフが、日本のチカラに～」と銘打った復興支援プログラムをスタートさせ、義援金総額50億円を目標として、平成25年度まで3ヵ年間に亘る息の長い復興支援活動を展開中である。

(2) 当協会の復興支援活動

東日本大震災直後の平成23年3月17日に、平成22年度第4回理事会を開催したが、公益

社団法人の立場から、社会貢献活動の一環として東日本大震災の復興支援は責務である、との緊急動議が決議され義援金募集活動を開始した。その後、同年4月には前述の通り、日本ゴルフサミット会議を中心としたゴルフ界団体の復興支援活動(GTC)がスタートし、当協会の復興支援活動も GTC の一環として位置付け、現在も活動中である。

■公益目的事業1. ゴルフ競技会開催事業

I. 概況

本事業はゴルフの普及振興を図るために、全国でアマチュアゴルファーを対象としたゴルフ競技会を開催する。競技は、1.スクラッチ競技と、2.アンダーハンディ競技があり、平成24年度の総参加者数は34,109名であったが、平成25年度は35,624名(前年度比1,515名増)を計画している。

参加資格はアマチュアゴルファー、ゴルフ技量は自己申告制で、言わばアマチュアゴルファーであれば、誰でも日頃の研鑽の腕試しの場として参加できる門戸の開かれた競技会である。

II. 開催競技と競技参加者数計画

1. 開催競技

開催競技(略称)
I.スクラッチ競技
1.第47回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)
2.第13回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)
3.第19回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)
4.第19回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)
5.第10回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)
6.第7回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドアマ)
II.アンダーハンディ競技
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選) (1)個人戦 (2)団体戦
4.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝) 個人戦
5.PGS西日本月例杯
6.PGS中部日本月例杯(みんなであそびき旅ゴルフ)
7.PGS東日本クラブ対抗戦

2. 競技参加者数計画

競技		平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比
I.スクラッチ競技					
パブリック選手権	男子	6,313	6,269	7,030	761
	女子	762	790	770	▲ 20
	計	7,075	7,059	7,800	741
シニア選手権	男子	1,631	1,569	1,575	6
	女子	382	312	315	3
	ミッド	1,024	960	960	0
	計	3,037	2,841	2,850	9
ミッドアマ選手権	男子	5,281	5,070	5,080	10
	女子	623	557	570	13
	計	5,904	5,627	5,650	23
合計		16,016	15,527	16,300	773
II.アンダーハンディ競技					
PGSスポンサー杯・ハンディ杯(予選)		6,563	6,448	6,300	▲ 148

PGSスポンサー杯・ハンデイ杯(決勝)	1,262	1,139	1,350	211
PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選)	595	452	420	▲ 32
PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝)	118	80	100	20
PGS西日本月例杯	10,054	9,594	10,170	576
PGS中部日本月例杯(みんなであきうき旅ゴルフ)	567	476	590	114
PGS東日本クラブ対抗戦	376	393	394	1
合計	19,535	18,582	19,324	742
総計	35,551	34,109	35,624	1,515

III.平成25年度競技の改善点

1.他団体競技のシード権追加

公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)、関東ゴルフ連盟(KGA)他8連盟等にシード権の追加申請をしたが認可はなし。

(参考:平成25年度他団体主催競技シード権一覧)

◆パブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本アマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
		中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープンゴルフ選手権決勝	1位	中部日本地区の出場者に限る
		中部ゴルフ連盟	翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	中部日本地区の出場者に限る
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者
			翌年度	北海道オープンゴルフ選手権予選	1～10位	当該地区居住者
		東北ゴルフ連盟	翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権青森県予選	ハノ倶楽部メンバー 上位2名	当該地区居住者 上位3～10位
		北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊ア全日本シングルプレーヤーズ'ゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者
	東日本ABC	関東ゴルフ連盟	翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権ブロック大会	1位	当該地区居住者
			翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権予選	2位～10位	当該地区居住者
		日刊スポーツ新聞社	当年度	日刊ア全日本シングルプレーヤーズ'ゴルフ選手権関東決勝	1～2位	男子のみ
	中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープンゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
当年度			中部オープンゴルフ選手権予選	2位～30位	当該地区居住者	
翌年度			中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
翌年度			中部アマチュアゴルフ選手権予選	2～30位	当該地区居住者	
西日本 関西	関西ゴルフ連盟	翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
		翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者	
	サンケイスポーツ	当年度	近畿オープンゴルフ選手権	1位	当該地区居住者	
西日本 中国	中国ゴルフ連盟	翌年度	中国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
西日本 四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
		翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権予選	2～3位	当該地区居住者	

	西日本九州	九州ゴルフ連盟	翌年度	九州アマチュア選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			翌年度	九州アマチュア選手権予選	2～5位	当該地区居住者	
◆女子パブリック選手権							
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考	
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本女子アマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない	
		中京TV・BS (公認:LPGA)	翌年度	中京テレビ・ブリヂストンレディス主催者推薦選考会	1位		
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部女子アマチュアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者	
	西日本四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国女子アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
◆パブリックミッドアマチュア選手権							
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考	
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドアマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない	
		中部ゴルフ連盟	翌年度	中部ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			翌年度	北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者	
		東北ゴルフ連盟	当年度	東北ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
					ハンクラブメンバー		
					上位2名		
			北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊ア全日本シングルプレーヤーズ'ゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者
		中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
当年度	中部ミッドアマチュアゴルフ選手権予選			2～20位	当該地区居住者		
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国ミッドアマチュアゴルフ選手権	1位	当該地区居住者	
◆シニアパブリック選手権							
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考	
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本シニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない	
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
			翌年度	中部シニアゴルフ選手権予選	2～20位	当該地区居住者	
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
◆女子シニアパブリック選手権							
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考	
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	翌年度	日本女子シニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない	
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部女子シニアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者	
◆ミッドシニアパブリック選手権							
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考	
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドシニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げ	

						は行わない
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部ミッドシニアゴルフ選手権	1～10位	当該地区居住者
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国ミッドシニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
◆グランドマンスリー						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
地区決勝	全地区	日本ゴルフ協会	当年度	JGA杯J-sysゴルフ選手権	4名	男子AB、女子ABクラス各1名

IV. 競技開催要項

1. 参加資格

競技名	参加資格	年齢資格
I. スクラッチ競技		
1. パ選	1. 日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規定されたアマチュアゴルファー 2. 高等学校までに在学している生徒は、学校長・保護者等責任者の署名入り参加許可証が必要 3. 誰でも参加できる。ハンディキャップ20.0程度以上が望ましい	なし
2. 女子パ選		男子55歳以上
3. シニア		女子50歳以上
4. 女子シニア		男子65歳以上
5. ミッドシニア		男子、女子共30歳以上
6. ミッドアマ		
II. アンダーハンディ競技		
1. アンダーハンディ競技(予選) (1) PGS スポンサー杯 (2) PGS ハンディ杯	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又は PGS ハンディキャップの取得者	なし
2. アンダーハンディ競技(決勝) (1) ダンロップ杯 (2) プリヂストーン杯 (3) グランドマンスリー		
3. PGS ドリーム・エイジゴルフ大会		
4. PGS 西日本月例杯	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又は PGS ハンディキャップの取得者	なし
5. PGS 中部日本月例杯 (みんなでうきうき旅ゴルフ)	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又は PGS ハンディキャップの取得者 JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得を目指すアマチュアゴルファー	
6. PGS 東日本クラブ対抗戦	PGS 会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又は PGS ハンディキャップの取得者	

(注) 1. PGS 会員: JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得を目的とした当協会の会員で、誰でも会員になれる

2. 競技の概要

■スクラッチ競技

[1]平成25年度第47回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

パブリック選手権はアマチュアゴルファーであれば誰でも参加できる開かれた檜舞台であり、またトップアマへの登竜門でもある。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	37	17	37	4	95

(1) 18ホールストロークプレー

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本 A	紫あやめ36	5/16(木)-17(金)
2. 東日本 B	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	5/20(月)-21(火)
3. 東日本 C	八千代ゴルフクラブ	5/21(火)-22(水)
4. 中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	5/22(水)-23(木)
5. 西日本 関西	グランドオークプレイヤーズコース	5/16(木)-17(金)
6. 西日本 中国	水島ゴルフリンクス	5/22(水)-23(木)
7. 西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/15(水)-16(木)
8. 西日本 九州	セントレジャーゴルフクラブ鞍手	5/21(火)-22(水)
9. 北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/26(月)-27(火)

(1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

3. 全日本

	開催コース	開催日
全日本	よみうりゴルフ ウェストコース	6/19(水)-20(木)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

(3) 全日本上位者2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 日本アマチュアゴルフ選手権競技 平成25年7月9日(火)～13日(土) 東京ゴルフ倶楽部(埼玉県)の出場資格が、付与される。

[2]平成25年度第13回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成25年度は第13回大会となる。第4回大会までは全日本男・女パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の名称で男子部門、女子部門を同日・同会場で開催していたが、参加者数の増大を機に平成17年度第5回大会から女子部門を独立させ、競技名称も全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技に改称し、単独競技となって9回目を迎える。

なお、平成25年度より中部日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技は、従来の予選・地区決勝競技を、地区決勝競技(2日間36ホールストロークプレー)に一本化する。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	21	—	25	46

(1) 18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本	千葉よみうりカントリークラブ	5/6(月)
2. 中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	5/9(木)-10(金)
3. 西日本	武庫ノ台ゴルフコース	5/10(金)

(1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手。中部日本は、競技申込者

(2) 18ホールストロークプレー。中部日本は、36ホールストロークプレー(2日間競技)

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	アリジカントリークラブ花垣コース	6/5(水)-6(木)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

(3) 全日本上位者2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 日本女子アマチュアゴルフ選手権競技 平成25年6月25日(火)～29日(土)東児が丘マリンヒルズゴルフクラブ(岡山県)のシード権が付与される

[3]平成25年度第7回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

近年のジュニアゴルファーの台頭と共に、パブリック選手権はジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著であり、アマチュアゴルファーの層が厚いミッド世代の腕前を競う競技として、平成17年度に西日本ミッドアマ選手権を創設した。その後、競技参加者数も順調に増加し、平成19年度より全日本を、平成20年度より地区決勝を立ち上げた。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
男子の部	34	12	38	4	88
女子の部	16	8	22	—	46

(1) 18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本A	オールドオーチャードゴルフクラブ	7/31(水)-8/1(木)
2. 東日本B	よみうりゴルフ倶楽部	7/22(月)-23(火)
3. 中部日本	正眼寺カントリークラブ	7/29(月)-30(火)
4. 西日本	ダンロップゴルフコース	7/25(木)-26(金)
5. 北海道・青森	ダイナスティゴルフクラブ	7/26(金)

(1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。北海道・青森は、18ホールストロークプレー

3.全日本

	開催コース	開催日

全日本	ベアズバウ ジャパン カントリークラブ	9/18(水)-19(木)
-----	---------------------	---------------

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー (2日間競技)

(3) 全日本男女上位者各2名に、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技平成25年11月20日(水)～22日(金)大宰府ゴルフ倶楽部(福岡県)、日本女子ミッドアマチュアゴルフ選手権競技 平成25年11月21日(木)～22日(金)三木ゴルフ倶楽部 東・南コース(兵庫県)の出場資格が付与される。

[4]平成25年度第19回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

男子シニア、女子シニア選手権競技とも第19回大会、ミッドシニア選手権競技は第10回大会を迎えシニア層に定着してきた。平成23年度より男子シニア、女子シニアと男子ミッドシニアは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催している。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	25	11	28	64

(1) 18ホールストロークプレー

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	9/25(水)-26(木)
2. 中部日本	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場	9/26(木)-27(金)
3. 西日本	米子ゴルフ場	9/25(水)-26(木)

(1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー (2日間競技)

3. 全日本

	開催コース	開催日
全日本	ウインザーパーク ゴルフ アンド カントリークラブ	10/16(水)-17(木)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー (2日間競技)

(3) 全日本シニア上位者2名には、公益財団法人日本ゴルフ協会主催の 日本シニアゴルフ選手権競技 平成25年11月13日(水)～15日(金)紫カントリークラブ・すみれコース(千葉県)のシード権が付与される

[5]平成25年度第19回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成23年度より男子シニア、女子シニアと男子ミッドシニアは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催することとし、これに伴い、地区決勝は1日競技から2日間競技へと充実した。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
----	-----	------	-----	----

予選数	15	7	16	38
-----	----	---	----	----

(1) 18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	9/25(水)-26(木)
2.中部日本	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場	9/26(木)-27(金)
3.西日本	米子ゴルフ場	9/25(水)-26(木)

(1) 出場資格者 :各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	ウインザーパーク ゴルフ アンド カントリークラブ	10/16(水)-17(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

(3) 全日本上位者2名に、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 平成26年度日本女子シニアゴルフ選手権競技(開催日、場所未定)の出場資格が、付与される

[6]平成25年度第10回全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成16年度よりミッドシニア層(65歳以上)の要望に応え、高齢者ゴルファーが参加し易い競技にすべく、男子部門のみであるが予選から全日本まで通して独立競技とする改善を實行し、本年度は第10回大会を迎えるが一層の参加者の拡大を期したい。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	17	10	23	50

(1) 18ホールストロークプレー

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	9/25(水)-26(木)
2.中部日本	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場	9/26(木)-27(金)
3.西日本	米子ゴルフ場	9/25(水)-26(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	ウインザーパーク ゴルフ アンド カントリークラブ	10/16(水)-17(木)

(1) 資格者 :各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)

(3) 全日本上位者2名に、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 日本ミッドシニアゴルフ選手権競技 平成25年11月11日(月)～12日(火)京葉カントリー倶楽部(千葉県)の出場資格が付与される

■アンダーハンディ競技

[1]アンダーハンディ競技(予選) (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯

[2]アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー

◆開催要項

1.参加資格

競技名	参加資格	競技方法
1.予選 (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯	PGS 会員	アンダーハンディ競技 18ホールストロークプレー
2.決勝 (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯	PGS スポンサー杯予選の上位者 各予選のベストグロス者	
(3)グランドマンズリー	PGS スポンサー杯、PGS ハンディ杯予選の上位者、各予選のベストグロス者	

(注)PGS 会員:JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得を目的とした当協会の会員で誰でも会員になれる

2.競技要項

(1)PGS スポンサー杯予選

PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技で、ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、キャロウェイゴルフ杯の4冠競技がある。平成25年度はダンロップ杯43回、ブリヂストン杯22回、サンレオ杯13回、キャロウェイゴルフ杯16回、合計94回の開催を予定し、11月に東日本・中部日本および西日本の3地区で地区決勝大会を開催する。

(2)PGS ハンディ杯予選

PGS 会員を対象とした当協会主催のアンダーハンディ競技。平成25年度は予選競技を26回開催する。

(3)ダンロップ杯決勝

ダンロップ杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

(4)ブリヂストン杯決勝

ブリヂストン杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

(5)グランドマンズリー決勝

ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、キャロウェイゴルフ杯、PGS ハンディ杯の各予選の上位者、および各予選のベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

男子A・Bクラス、女子A・Bクラス各1名に、公益財団法人日本ゴルフ協会主催 JGA 杯 J-sys ゴルフ選手権 平成25年12月3日(火)鷹之台カントリー倶楽部(千葉県)の出場資格が付与される。(対象地区:東日本)

◆競技日程

1.予選

予選数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
-----	-----	------	-----	--------	----

1.PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	16	7	20	—	43
	ブリヂストン杯	8	5	9	—	22
	サンレオ杯	5	4	4	—	13
	キャロウェイ杯	6	5	5	—	16
2.PGSハンディ杯		9	5	8	4	26
合計		44	26	46	4	120

2.決勝

(1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	ムーンレイクゴルフクラブ市原コース	11/29(金)
2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	11/ 7(木)
3.西日本	北神戸ゴルフ場	11/ 1(金)

(2)ブリヂストン杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	市原ゴルフクラブ柿の木台コース	平成26/3/10(月)
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	10/23(水)
3.西日本	姫路シーサイドゴルフコース	11/14(木)

(3)グランドマンズリー

地区	開催コース	開催日
1.東日本	新玉村ゴルフ場	11/14(木)
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	11/20(水)
3.西日本	よみうりゴルフ ウェストコース	11/27(水)

[3]PGSドリーム・エイジゴルフ大会

平成20年度まで高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」[主催:日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)]を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」をスタートさせた。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、従来は当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)を適用し開催していたが、平成25年度競技より歩数ハンディキャップを廃止し、年齢ハンディキャップのみを適用した競技方法に変更する。ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技であり、平成23年度よりゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の後援を受けている。

◆競技日程

1.予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	6	8	5	0	19
2.団体戦	1	—	—	—	1
合計	7	8	5	0	20

(1)18ホールストロークプレー

(2)グロス・スコアから年齢を引いたネット・スコアにより順位を決定。平成25年度より歩数ハンディキャップを廃止する。

(3)ゴールドティ使用

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	下館ゴルフ倶楽部	10/22(火)
2.中部日本	セントレジャーゴルフクラブ定光寺	10/30(水)
3.西日本	西神戸ゴルフ場	10/29(火)

(1)競技方法 :予選と同じ

[4]PGS西日本月例杯

PGS 西日本月例杯はアンダーハンディ競技の充実を図るための、PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技である。以前は東日本・中部日本でも開催していたが、現在は西日本地区のみで開催している。今後 JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得推進、アンダーハンディ競技の充実の観点から、課題を整理の上再度全日本競技を目指したい。

なお、平成25年度より、PGS 西日本月例杯西近畿決勝大会を前期、後期の2回に分け開催する。

(1)開催回数

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	95	44	25	4	168

(2)参加資格 :PGS会員でJGA/USGAハンディキャップインデックスを取得している者

(3)競技方法 :18ホール・ストロークプレー、アンダーハンディ競技

[5]PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)

平成21年度より新規競技会「PGS中部日本月例杯:みんなでうきうき旅ゴルフ」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、当協会は従来からわが国唯一の公認ハンディキャップであるJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及振興に努めており、アマチュアゴルファーの証である同ハンディキャップの取得機会の一層の拡大を目指した競技会である。

■予選

①開催会場 :中部日本会員コース 10コース

②参加資格 ・アンダーハンディ競技:PGS会員でJGA/USGAハンディキャップインデックスの取得者。

・ダブルペリア競技:PGS会員、及びJGA/USGAハンディキャップインデックス取得を目指すアマチュアゴルファー

③競技方法 ・18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

・ダブルペリア競技

■決勝

①開催日 :平成26年3月17日(月)

②開催会場 :ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場

③参加資格 :各予選の通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手

④競技方法 :・18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

・ダブルペリア競技

[6]PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技としてスタートした。JGA/USGA ハンディキャップインデックスの普及振興を目指したクラブ対抗戦で、東日本地区を4ブロックに分けブロック予選を開催、各ブロックより男女各2チーム、並びに決勝大会開催クラブより男女2チーム、前年度優勝クラブ代表男女2チームをシードにより加えた合計12チームで決勝大会を開催する。

■ブロック予選

(1)参加資格

東日本地区会員クラブの何れかで PGS 会員登録をし、JGA/USGA ハンディキャップインデックスを取得しているアマチュアゴルファー

(2)競技方法

- ①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA/USGA ハンディキャップインデックス)
- ②ハンディキャップの下限 :男子部門20.0、女子部門30.0
- ③順位決定 :男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による
女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による

(3)開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、ハーモニーヒルズ、ウィンザーパーク、うぐいすの森水戸、下館、オールドオーチャード	オールドオーチャードゴルフクラブ	10月1日
Bブロック	古河、新玉村、前橋、上武、朝霞、妻沼、三井の森	前橋ゴルフ場	9月30日
Cブロック	市原、市原・柿の木台、セントレジャー千葉、千葉よみうり、八千代、ムーンレイク市原、ラヴィスタ、紫あやめ36	ムーンレイクゴルフクラブ市原コース	10月4日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル、鹿島南蓼科	富士見高原ゴルフコース	10月2日

(4)ブロック予選代表チーム

各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注)決勝大会開催クラブ、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する

■決勝大会

(1)開催会場 :上武ゴルフ場

(2)開催日 :前夜祭 平成25年10月29日(火)・クラブ対抗戦 10月30日(水)

(3)参加資格 :①PGS 東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ

②決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ

(4)チーム編成 :1クラブ男子部門8名・女子部門5名

(5)競技方法 :①18ホールストロークプレー

②ハンディキャップは最新のJGA/USGA ハンディキャップインデックスを適用(男子部門20.0、女子部門30.0まで)

③男子部門 :上位5名のネットスコアの合計スコアによる

女子部門 :上位3名のネットスコアの合計スコアによる

■公益目的事業2. ゴルフ普及振興事業

I. 調査・研究事業

1. 平成25年度調査・研究事業

公益社団法人認定を機に、メイン事業のゴルフ普及振興に加えて、ゴルフ普及振興事業の調査研究事業の充実を図り、その成果を世の中に広く情報発信する事業である。平成24年度はゴルフ業界の需要実態推移、同地域的推移、ゴルファーのニーズ調査等に関する調査レポート(PGS ゴルフ需要調査)を作成した。

平成25年度は、近年の競技参加者数減少により協会収支状況が逼迫しているに加えて、PGS ゴルフ需要調査の毎年実施の必要性の有無について、あるいは2～3年毎の実施で効果は十分見込めるとの議論、一方には、公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)・一般社団法人日本ゴルフ場事業協会(NGK)・ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)と連携し、ゴルフ界挙げての調査・研究事業に拡大・充実を図るとの議論がある。従って、平成25年度はその検討状況待ちとし取りあえず見送りとする。

(参考)直前3事業年度の調査・研究事業

年度	調査・研究内容
平成22年度	ゴルフのプレー頻度がゴルファーの健康や生活に及ぼす影響
平成23年度	中止
平成24年度	ゴルファーのゴルフ動態調査

II. セミナー・研修事業

本事業は生涯スポーツであるゴルフの普及振興のために、セミナー・研修会を通じてゴルファーの啓蒙に資するための事業を実施する。また、一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催する事業である。

1. 平成25年度セミナー開催予定

日時	平成25年6月10日(月)	場所	八重洲富士屋ホテル
テーマ	「2012PGSゴルフ動態調査結果報告」		
講師	株式会社WAY企画事務所 代表 山岸 勝信		

(参考)直前3事業年度のセミナー開催実績

年度	テーマ	講師
平成22年度	アンチエイジング・ゴルフという考え方	齋藤 真嗣(ニューヨーク州医師)
平成23年度	未開催(東日本大震災の影響による財政逼迫化から開催見送り)	
平成24年度	未開催(創立50周年記念パーティー開催のため見送り)	

2. 平成25年度研修会開催予定

(1) JGA/USGA ハンディキャップシステム運用研修会

日時、会場、講師等未定

平成26年1月1日よりハンディキャップシステムの変更が予定されているが、公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)の協力を得て、JGA/USGA ハンディキャップシステム運用研修会を開催する予定。

(2)グリーンキーパー研修会

日時	平成25年4月3日(水)	場所	アリジカントリークラブ花垣コース
テーマ	夏場のグリーン管理		
講師	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場 前田 宗明		
テーマ	インターシードによるグリーンコンディション向上について		
講師	セントレジャーゴルフクラブ定光寺 鈴木 薫		

(参考)直前3事業年度の研修会開催実績

年度	テーマ
平成22年度	ベントグリーン全面張替とコース管理
	2009年度コース管理について
平成23年度	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)のコース管理について
	土壌改善による健康な芝作り
平成24年度	夏季ベントグリーンの管理について
	グリーンの排水改善について

Ⅲ.交流・協力事業

ゴルフ業界を取り巻く環境は厳しいが、ゴルフの普及振興のためにゴルフ界の諸団体は連携・協力してゴルフ市場活性化に向けた様々な活動を展開する必要がある。ゴルファー人口の底辺拡大はゴルフを通じて国民の心身の健全な発展、豊かな人間性の涵養、高齢者の健康の保持増進、また児童・青少年の健全な育成に資するもので、この観点から当協会はゴルフ界諸団体と連携・協力して、ゴルフ市場の活性化に向けた事業を展開する。

1.平成25年度の交流・協力事業実施計画

(1)日本ゴルフサミット会議

日本ゴルフサミット会議はゴルフ業界17団体で構成され、平成25年度は次のテーマの下に活動するが、当協会も歩調を合わせた活動を展開する。

①日本ゴルフサミット会議

日時	平成25年1月11日(金) 10:00~11:20	内容	2013年活動テーマの決定 1.ゴルフ界はグリーン・ティ・チャリティー活動に積極的に取り組む 2.ゴルフ界は環境問題に積極的に取り組む 3.ゴルフ場利用税廃止運動の継続 4.国家公務員倫理規程における「ゴルフ」の削除 5.ゴルフ活性化への取り組みゴルフ活性化への取組[「ゴルフウィーク」(毎年8月1日~7日)]の制定
場所	ANAインターコンチネンタルホテル東京		

②ゴルフ新年会の開催

日時 平成25年1月11日(金) 11:30~15:00

場所 ANAインターコンチネンタルホテル東京

③日本ゴルフサミット会議運営会議に参加(隔月開催)

(2) ゴルフ市場活性化委員会 (GMAC)

ゴルフ界の現況下、新たなゴルフ需要の創造と、ゴルフの健全成長に向けた様々な取り組みが展開されている。ゴルフ市場活性化委員会 (GMAC) は、平成15年10月に発表された『ゴルフ市場活性化行動計画検討会報告書』(経済産業省)に基づき、平成16年9月にゴルフ業界5団体(注)により発足した。「始めよう、続けよう、もっとゴルフを」のスローガンの下に、(1)「スクランブルゴルフ」の提唱、(2)「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」(日本ゴルフ場事業協会主催)の支援、並びに(3)平成23年度には当協会の「PGS ドリーム・エイジゴルフ大会」が、当委員会の後援が決定する等、業界5団体が連携してゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開しており、平成25年度も継続して展開する。

なお、平成24年度から、関西地区ゴルフ市場活性化委員会(関西GMAC)が立ち上がり、当協会もその構成メンバーとして活動している。

(注) 構成団体: 公益財団法人日本ゴルフ協会、一般社団法人日本ゴルフ場事業協会、一般社団法人日本ゴルフ用品協会、社団法人全日本ゴルフ練習場連盟、および当協会

(3) NPO 日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

NPO 日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。斯業界の実情は、業界関係者は業界を挙げて市場活性化に向けた活動をする必要があり、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加え、ゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、平成25年度も引き続き同協議会と連携して活動する。

IV. 機関紙発行事業

当協会主催競技に関して、競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の模様、競技成績等を盛り込んだ機関紙「PGSニュース」の発行[年1回(2月)]を、平成25年度も継続する。

平成24年度より新聞形式から冊子形式に切り替え、競技参加者に対して無償配布している。「PGSニュース」は既に80号を重ね、我が国のパブリックゴルフ史としても貴重な資料である。

V. その他のゴルフ普及振興事業

ゴルフ業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。この様な状況下、ゴルフ業界は一層連携を強化し、新規ゴルファーの育成、需要創出が喫緊の課題であり、当協会もゴルフ市場の活性化に向けゴルファーの底辺拡大施策等様々な取り組みを推進した。

1. ジュニアゴルファー育成の取り組み

NPO 法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)の活動目的のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に資するものであり、斯業界にとってはゴルファーの裾野拡大の観点より重要な課題である。ジュニアゴルファーの育成は業界団体が業界を挙げて取り組み、市場活性化に向けた活動を連携する必要がある。当協会は同協議会の構成メンバーとしてジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

2. 他団体との協賛・後援事業

- (1) 一般社団法人日本ゴルフ用品協会に対し後援 : 第47回ジャパンゴルフフェア2013
- (2) NPO 法人日本芝草研究開発機構に対し後援 : 創立20周年記念事業
- (3) 日本ゴルフサミット会議に対し協賛 : 2013年ゴルフ新年会
- (4) 他団体競技の後援(予定)

競技名	主催者
第35回 ALL KANSAI テレビ アマチュアゴルフ選手権	(株)サンテレビジョン
第5回ウッドフレンズレディース アマ・プロゴルフ選手権競技 女子アマチュアの部	森林公園ゴルフ場運営会社(株)
第30回・第31回アオノジュニアゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
第21回・第22回すきっぷ 21:アオノ親子ゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
日刊アマゴルフ2013 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権東日本大会	日刊スポーツ新聞社東京本社
日刊アマゴルフ2013 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会 全日本レディースゴルフ選手権北海道大会	北海道日刊スポーツ新聞社
2013年近畿オープンゴルフ選手権	サンケイスポーツ
アジアジュニア親善ゴルフ大会in沖縄2013	沖縄タイムス社

■その他の事業1 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業

I. ハンディキャップ普及振興事業

1. 自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップ(JGA/USGAハンディキャップインデックス:国際ゴルフ・ルールに基づき公益財団法人日本ゴルフ協会が発給)が前提である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、JGA/USGAハンディキャップインデックスは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会はアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及を推進している。競技主催団体にとっては、公平な統一ハンディキャップの普及振興は、アンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件である。

当協会のJGA/USGAハンディキャップインデックス取得者は約21,000名で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることができ、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

平成25年度も引き続き、JGA/USGAハンディキャップインデックスの普及、HDCP取得者の拡大を推進する。

2. 「USGAコースレーティングシステム」、「USGAハンディキャップシステム」の導入

公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)は、平成24年よりUSGAが開発・所有し、世界の約60カ国と地域で採用されている、「USGA コースレーティングシステム」(通称スロープシステム)、および「USGA ハンディキャップシステム」の導入を決定した。

USGA ハンディキャップシステムの導入に伴い、コースレーティングもこれまでのJGA方式からUSGA方式に変更となり、改めてコース査定を行い算出されたスロープレーティングを、平成24年より順次付与することになった。スロープレーティングの普及により、ゴルファーはこれまで以上に公平なハンディキャップによってゴルフを楽しむことが可能となり、ひいてはプレー回数やゴルフ人口の増加などゴルフの更なる普及に繋がることが期待される。

また、USGA ハンディキャップシステムでは、平成26年からハンディキャップ査定スコアカードが、現行の10枚から20枚に変更される。

平成25年度も当協会は、JGAの動きに連動して順次協会加盟会員コースのスロープレーティングの査定を進め、USGA ハンディキャップシステムの導入を推進する。

3. JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得者の推移

単位:名

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
20,262	25,451	23,471	24,663
平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度計画
24,974	23,371	20,137	21,427

4. JGA/USGA ハンディキャップインデックスの導入状況

1. 平成18年4月現在

	東	中部	西	合計
会員数	33	11	42	84
JGA採用	31	10	21	62

導入率74%

2. 平成25年3月現在

	東	中部	西	北・青	合計
	31	11	37	4	83
	30	11	36	4	81

*導入率98%

II. JGA/USGA コースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップである JGA/USGA ハンディキャップインデックスの普及のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する公益財団法人日本ゴルフ協会 (JGA) に対して、会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき申請窓口として機能している。平成25年度は、次の6コースでコースレート査定を予定している。

東日本地区	西日本地区	中部日本地区
1.八千代ゴルフクラブ 2.ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ 3.大麻生ゴルフ場 4.新君津ベルグリーンカントリー倶楽部	1.湯村カントリークラブ	1.正眼寺カントリークラブ

■その他の事業2. 助成金事業

本事業はゴルフの普及を図るために、従来ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に、当該団体の活動を通じて間接的に児童・青少年の健全な育成に資するために、助成金事業を実施してきた。

然しながら、当協会の競技参加者人数は平成19年度にピークアウト、加えて平成23年の東日本大震災の影響から激減し、この結果収支状況が逼迫しており、残念ながら平成24年度以降当事業は休止を余儀なしとされている。

事業計画書の附属明細書

■役員その他の法人等の業務執行理事との重要な兼職の状況

平成25年3月31日現在

区分	氏名	兼職先法人等	兼職の内容	関係
理事(代表理事)	三野 哲治	住友ゴム工業株式会社	取締役会長	
理事	石井 信成	社団法人全日本ゴルフ練習場連盟	会長	
		株式会社那須野ヶ原カントリークラブ	代表取締役社長	
理事	三治 明	株式会社三治製作所	代表取締役会長	
		株式会社正眼寺カントリークラブ	代表取締役社長	
理事	西村 潔	株式会社京阪ゴルフ倶楽部	理事長	
理事	三浦 光男	読売ゴルフ株式会社	代表取締役社長	
理事	加藤 義孝	東名ゴルフ株式会社	代表取締役社長	
理事	六車洋二郎	株式会社コート・パール徳島	代表取締役社長	
理事	森 章次	公益社団法人社納税協会	理事	
		株式会社アオリポート	代表取締役社長	
理事	伊藤 哲夫	伊藤公認会計士事務所	公認会計士	
監事	菅野 孝男	常和ゴルフマネジメント株式会社	代表取締役	
監事	大田 英二	株式会社チュウブ	代表取締役社長	
監事	豊原 正嗣	豊原会計事務所	公認会計士	

(注)当協会にとって兼職先法人等が重要な法人である、並びに当該役員が兼職先の法人等で重要な職務を担当している場合を記載している。

■その他の記載事項

1.定款に定める事業内容について補足すべき重要な事項

定款第5条で「(その他の事業) (2)ゴルフ関係諸団体に対する助成金事業」を定めている。従来、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動するゴルフ界2団体[NPO法人日本ジュニア育成協議会(JGC)、並びに一般社団法人日本高等学校ゴルフ連盟]に対して、活動支援の観点からの助成金事業を行ってきたが、近年の競技参加者数減少による収支状況悪化から、平成23年度以降実施を見送っている。

以上

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
会長(代表理事) 三野 哲治

